

「保育内容（言葉）の指導法」

1. 教育の責任

この科目は「領域及び保育内容の指導法に関する科目」として位置づけられており、本学科の「保育者としての専門的知識や実践的技能を修得し、様々な側面から子どもを理解し、国際・地域社会における今日的なニーズに対応できる人」というディプロマ・ポリシーと関連している。特に、学習成果の評価基準の⑦「保育内容についての専門知識を持っている」⑨「子どもを理解するための知識と実践的な能力を身に付けている」の部分と関連している。

2. 教育の実施における理念

子どもの成長には家庭はもちろんのこと、保育園や幼稚園、こども園での関わりも大きい。特に幼児期に携わる保育者は、「保育のプロ」として子どもと関わらなければならない。常に子どもと寄り添い、様々な面から子どもを見る為には、専門的知識の修得はもちろんのこと、それをどのように活かしていくのか実践的な技能も必要である。そのため、保育者を目指す学生は、保育所保育指針や幼稚園教育要領等に示されている内容を理解し、実際の子どもの姿と保育がどのように結びついているのか捉える力が必要である。本授業では、学生自らが自主的に学ぼうとする力を育むと同時に、学生同士が対話を行い新たな視点を見つけることで保育を深く学んでいくことを重視していく。

また、子どもの姿は1つの領域だけではなく、様々な領域が含まれていることを捉えることが出来るよう、本授業だけでなく保育内容「人間関係」「環境」等、他の領域科目と連携しながら求められる保育者養成に向けて授業を行っていく必要がある。

3. 教育の方法

展開時期は1年次の後期となる。1年の春休みから保育所実習が始まるため、実習前に専門的知識を身につけておくことで、授業で学んだことを実際に見て体験することでさらに深く理解することが出来ると考えられる。

授業の前半は保育所保育指針や幼稚園教育要領を読み理解することを重視した。読むのではなく、PowerPointやWordを使い、学生同士で発表することを行なった。後半では、事例や保育現場の写真・動画からどのような育ちがあるのかを個人またはグループで指針を使いながら読み取っていく活動を取り入れた。また、言葉の発達に関連

した課題や活動も取り入れることで実際に体験しながら理解できるようにした。最終課題として、保育教材を作成し実習に向け、子どもたちに伝わりやすい方法を学生同士実践し理解する場を設けた。

振り返りとして授業終わりに感想用紙を準備し提出させ、疑問点があれば返答し、共通理解を行えるようにした。

4. 教育の成果

成績評価は、授業課題とレポート、実践を用いた最終課題によって評価をした。

授業課題とレポートに関して、課題の内容と発表する際の工夫点等を評価した。実践を用いた最終課題に関しては、発表に用いた制作物とそれを用いた表現する方法を評価した。生徒は自分で作った制作物を用いて、工夫しながら相手に伝えることを意識し行うことが出来ていた。学生からの感想では、「次の実習に活用できと思った」「実習で実践するのが楽しみである」という意見があった。

授業アンケートでの授業に対する5段階評価では、96%以上が「最も良い」「良い」と回答している。感想や意見では、「月齢や年齢に応じた発達を学ぶことで土台となるものができ、演習問題を解くことでより実践的な学習ができた。グループや個人での活動も多く、まとめたものを発表したり、見たり聞いたりすることで伝えることの大変さや、他の学生の創意工夫を知ることができ自身の糧となった」「実際に実習や実務に役立つ知識を学べるような工夫がされてある授業でとてもためになる」「行事のことについて知らない学生も多いので、年賀状やかると、園だよりの作成をやってみたりする中で、自然に学生たちが意識できるような工夫をされていてすごい」といった感想や意見があった。学生の現状を踏まえ、課題の意味や取り組み方を引き続き研究していきたい。

5. 目標

今回の教育方法については来年度も続けて行くと共に、学生に合わせて授業方法を変更し改善して行く必要があると考えられる。なぜこの課題が必要なのかどうか学生自身で考えられるように指導していきたい。

また、感想やレポートから書ける学生と書けない学生の差が大きく、自分の意見を文字にするということが苦手な学生が多いように感じられた。その為、授業内でも高められるような取り組みが必要だと考えられる。